

イチゴ



育苗

置き肥 → 緩効性チッソの置き肥と、畑の大将〈青〉20kg / 鉢の置き肥

前半(6~7月)

- 根っ酵素500倍液を散布 → 根の強化・展葉促進・タンソ予防。
- 花咲くCa液500倍を散布 → 葉の厚み・株の充実・ウドンコ予防。4日ごと交互に。またチッソ切れの時はアミノ酸液肥を。

後半(8月)

- 花咲くCa液500倍を散布 → 株の充実・花芽分化の促進。
- 根っ酵素500倍液を散布 → 根と株の体力をつける。Caを7~4日ごとに使用し、3回に1回ほど酵素液を使用。特に花芽分化前にはCaを2~3日ごとに散布する。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
株取り床	土作り+肥料	<ul style="list-style-type: none"> ● ラクトバチルス600g ● 堆肥1トン以上 ● 硫安100kg ● 畑の大将〈青〉60kg~100kg ※堆肥が無い場合は米ヌカ150kgと、NPK肥料を使用。
	途中調節	<ul style="list-style-type: none"> ● 根っ酵素500倍液を葉面散布 → 根の強化・ランナー発生。 ● 花咲くCa液500倍を葉面散布 → 葉の厚み・株の充実。7日ごと交互に。またチッソ切れの時はアミノ酸液肥を。
本圃の準備	土作り(なるべく早期に)	<ul style="list-style-type: none"> ● 堆肥・有機物・ワラなど1トン以上(なるべく多く) ● ラクトバチルス600g ● 硫安80~100kg ● 畑の大将〈青〉60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。
	[8月] 定植前の施肥	<ul style="list-style-type: none"> ● 畑の大将〈青〉30kg (マンゾク・粒状50kg) ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 ※土壌消毒をした場合はラクトバチルス600g追加。
定植~一番果	定植時の灌水時	● 根っ酵素1000~500倍液を灌水 → 初期の根張り促進。
	[10月下旬] マルチ張り前	● 畑の大将〈青〉10kg + 硫安10kgをウネ上に散布。状態によって10kg~20kgで、調節。
	[定植後1ヶ月] 一番花の頃	① 開花前 ● 花咲くCa液500倍を葉面散布 → 受粉促進。 ② 着果後 ● 根っ酵素500倍液を葉面散布 → 初期肥大促進。
	[11月~12月] 一番果の肥大期 ※状況を見て	<ul style="list-style-type: none"> ● 根っ酵素2ℓを灌水 → 根の強化・新葉の展開。 ● アミノ酸液肥2ℓを灌水 → 体力強化。 ● 花咲くCa液500倍を葉面散布 → 成熟・ウドンコ防止。(月2回)
冬期	[12月~1月] ※状況を見て	<ul style="list-style-type: none"> ● 根っ酵素2ℓを灌水 → 根の強化・休眠打破。 ● アミノ酸液肥5ℓを灌水 → 体力強化。 ● 花咲くCa液500倍を葉面散布 → 厚みをつける。(月2回)
春期	[2月後半以降] ※状況を見て	<ul style="list-style-type: none"> ● 花咲くCa液5ℓを灌水、10日間隔2回 → 過繁茂防止・果実の軟化防止。 ● アミノ酸液肥5ℓを灌水、状況を見て月1回。

①カルシウムは土壌によって使い分ける事。

土壌が酸性の場合は畑の大将〈青〉、連作ハウス等で高pHの場合は田畑の大将〈赤〉。

②基本的に、根を強化する根っ酵素液と、充実・成熟させる花咲くCa液とでコントロールする。上記の使用法は一例、状況に合わせて加減する。

③チッソを含む液肥は、無機チッソをやらずに、アミノ酸液を使用する事。

カルテック農法では、果実のソウ果(ゴマ)が多く、肥大、品質も向上。